

わかってきたこと

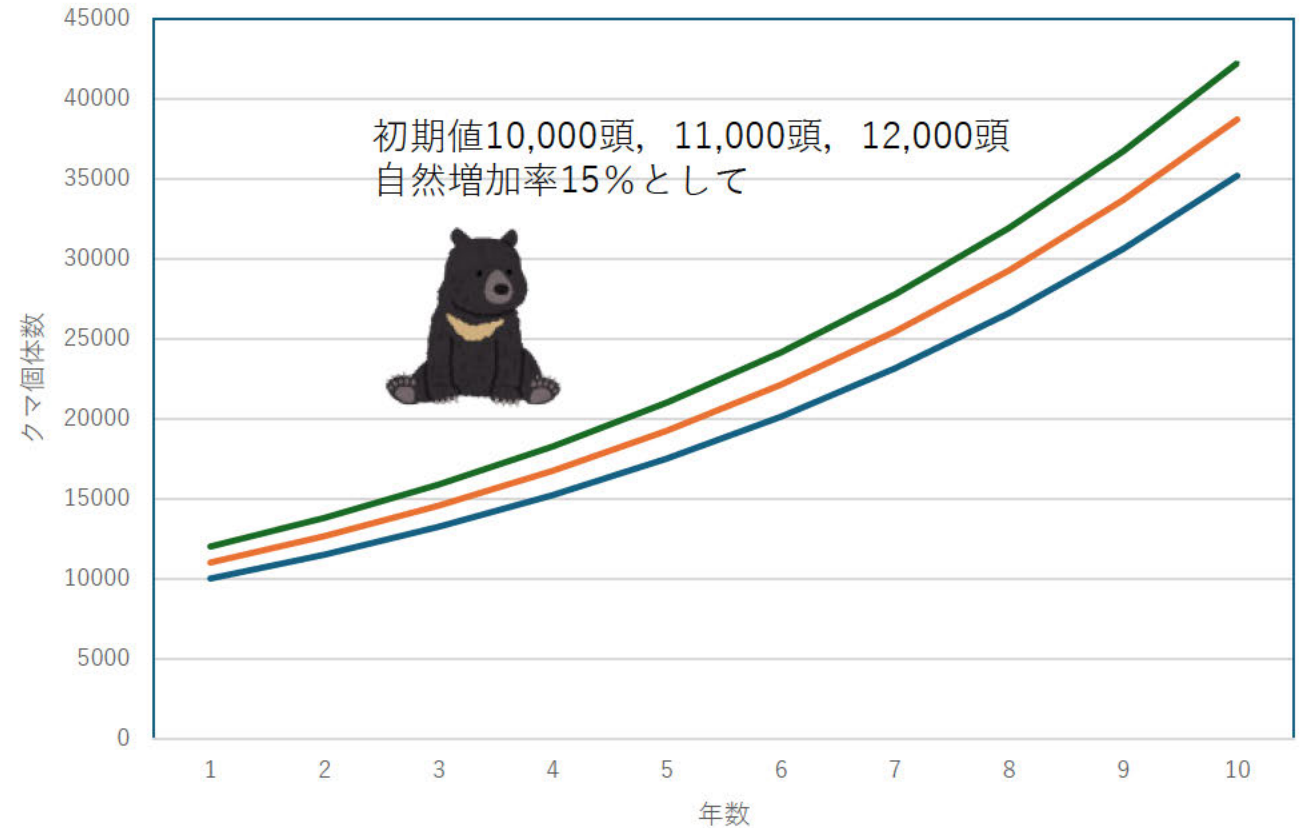
- クマは広範囲を移動
⇒ 複数の県が協働しての広域管理が必要
- クマは集落周辺と奥山を季節によって使い分けている
⇒ 奥山のクマの集落周辺への吸出しが起こっている
⇒ クマのゾーン（奥山，集落周辺）ごとの生息数は季節変化する
- 集落周辺の利用は7月以降に起こり，農作物に執着
⇒ 農業者は被害者であると同時に市街地へのクマ侵入のきっかけをつくっている可能性
- クマの人慣れは段階的に進んでいく
⇒ 捕獲管理と並行して誘引物管理を進めるべき

北東北のツキノワグマの現状

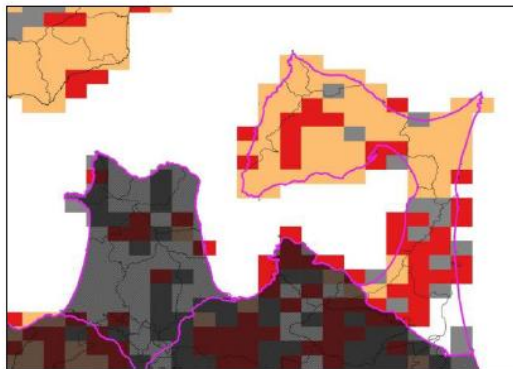
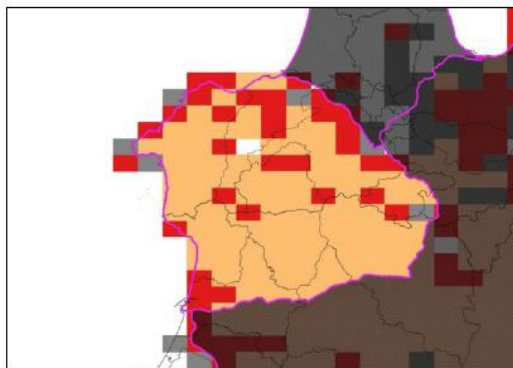
- 秋田県全域での推定中央値3,900頭（2026年3月発表）
 - 岩手県全域での推定5,200頭（2026年6月発表）
 - 青森県全域での推定1,614頭（2024年発表）
- 【下北半島管理ユニット】 青森
- 【白神山管理ユニット】 秋田，青森
- 【北奥羽山地管理ユニット】 秋田，青森，岩手
- 【北上山地管理ユニット】 青森，岩手，宮城
- 【鳥海山地管理ユニット】 秋田，山形
-
- 本州全体では、2020年前後の各都府県の推定値を足しあげて min約45,000頭

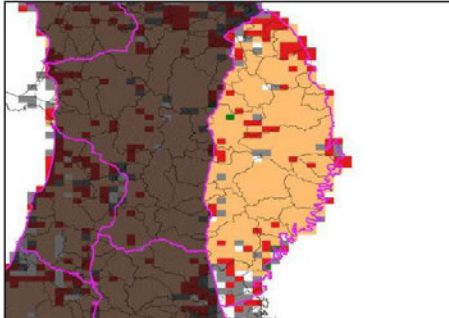
ただし、推定頭数は中央値、自然増加率は不明

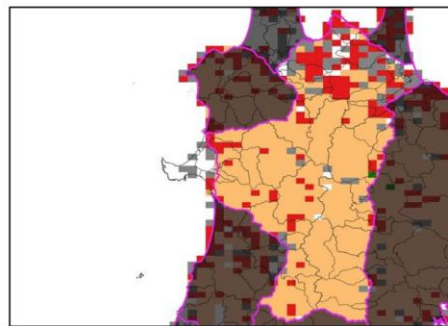
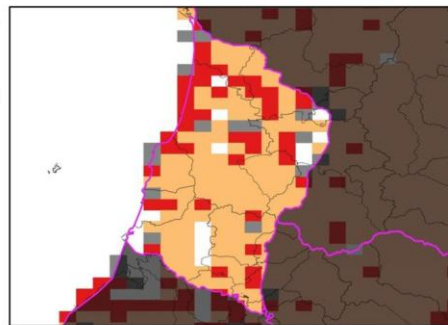
北東北のクマの増加予測



北東北の保護管理ユニット

保護管理ユニット①：下北半島（青森県）	
特定計画：なし	
RDB 選定状況 環境省（2020）：LP※ 青森県（2020）：【下北半島】LP※	
その他の状況 ・日本北限のツキノワグマ個体群。 ・下北半島と北奥羽ユニットの分布域が接する状況がみられる。 ・計画的な保護・管理が求められる。	
保護管理ユニット②：白神山地（青森県・秋田県）	
特定計画：秋田県	
RDB 選定状況 秋田県（2020）：継続観測種	
その他の状況： ・生息環境が豊かで個体群の存続可能性は高い。	

保護管理ユニット③：北上山地（青森県・岩手県・宮城県）	
特定計画：岩手県、宮城県	 凡例 クマ類の生息が確認されたメッシュ(5km四方) ■ 2003年度調査でのみ確認 ■ 2003年度と2018年度調査で確認 ■ 2018年度調査でのみ確認 ■ 2018年度調査で一時的な生息が確認 ■ 保護管理ユニット
RDB 選定状況 岩手県（2014）：Dランク	
その他の状況 - 北奥羽ユニットの往来の可能性が高い。 - 北部、南部での分布拡大が目立つ。	

保護管理ユニット④：北奥羽（青森県・岩手県・秋田県）	
特定計画：岩手県、秋田県	
RDB 選定状況 岩手県（2014）： （タイトルなし） Dランク 秋田県（2020）：継続観測種	
その他の状況 • 東北地方の分布域の核となる広く安定した個体群。 • 北部平野部での分布拡大が目立つ。 • 男鹿半島でも生息情報が確認されている。	
保護管理ユニット⑤：鳥海山地（秋田県・山形県）	
特定計画：全県	
RDB 選定状況 秋田県（2020）：継続観測種	
その他の状況 • 南北奥羽ユニットとの往来の可能性が高い。	

西日本と比べ管理面積とクマの数が多い

	青森県	秋田県	岩手県	兵庫県	島根県	
人口	117万	90万	115万	534万	64万	総務省統計局（2026）
クマ生息メッシュ数	490	552	701	247	257	
クマ推定頭数	1614	3900	5200	667	1307	ただし，島根県，広島県，山口県での推定頭数で1307頭
管理ユニット（地域個体群）	4	3	2	2	1	
鳥獣職	？	5+	1？	－	13	兵庫：環境部自然鳥獣共生課，島根農林水産部農山漁村振興課
研究職	？	予定	？	6	3	兵庫：兵庫県森林動物研究センター（県立大兼務），島根：島根県中山間地域研究センター
現場対策専門職	？	－	？	5	5	兵庫：鳥獣専門対策員（県行政職），島根：鳥獣専門指導員（有期雇用）

※秋田県は鳥獣職が現場対策業務を兼ねる

課題 1

許可捕獲個体と人身事故事例からいまだに学べていない

- 許可捕獲個体の性，年齢，栄養状態，空間構造は？
- 加害個体の性，年齢，栄養状態，子の有無は？
- 受傷者の性，年齢，行動，受傷部位は？
- 死亡事故の場合の食害の有無は？ ⇒ ご遺族への配慮などだが，その後の迅速な加害グマ管理と事故再発防止に障害
- 毎年数1,000頭以上の許可捕獲個体，100人以上の人身事故のデータ解析結果がいまだに公表されないことは不思議

課題 2

捕獲が管理の手段ではなく目的に

- 両輪であるべき 生息環境管理(被害管理)が出来ていない
- 奥山からの誘引と人慣れグマの創出
⇒ ゾーニングの効果低下
- 各管理ユニットの個体数, 自然増加率も不明なまま ⇒ 兵庫県の15%のみ

**管理ユニットごとのモニタリング,
捕獲効果の評価が間にあっていない**

本州17と四国1の管理ユニット(地域
個体群とほぼ同意)

課題 3

人材の決定的不足

- 現場レベルの人材：猟友会頼みからの脱却 ⇒ 公的身分を保持したモニタリングおよび捕獲技術を併せ持った人材の育成と確保 ⇒ ※ガバメントハンターとは？
- 管理施策決定レベルの人材：データ分析できるシンクタンクの欠如(栃木県，長野県，兵庫県，島根県のみ)

※パブコメ中の「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針（案）」では

- (1) 捕獲を担う人材
- (2) 生息環境管理、被害防除対策を担う人材
- (3) 関係者との調整等を担う人材

ただし，捕獲個体からの科学的データの収集（モニタリング）については言及されていない・・・

クマとのす み分けに向けて

- 広域でのゾーニング管理の推進
 - ⇒ 個体数管理の効果の評価は必須
 - ⇒ 誘引ゾーンがあるとコアゾーンが担保できない
- 管理ユニットごとの生態学的情報の収集
 - ⇒ 個体数あるいは増減傾向の把握
 - ⇒ 自然増加率など管理のため情報把握
- クマの集落への依存をさらに進行させない工夫
 - ⇒ 農地管理，人家周辺の環境整備
 - ⇒ 電気柵，電気マットの利用
- ICTやAIの活用
 - ⇒ 監視と警報システムの構築
- 担い手の育成と配置
- 過疎・高齢化下での地域社会の将来的デザイン

クマと遭わ ないための 工夫・遭っ た時の対処

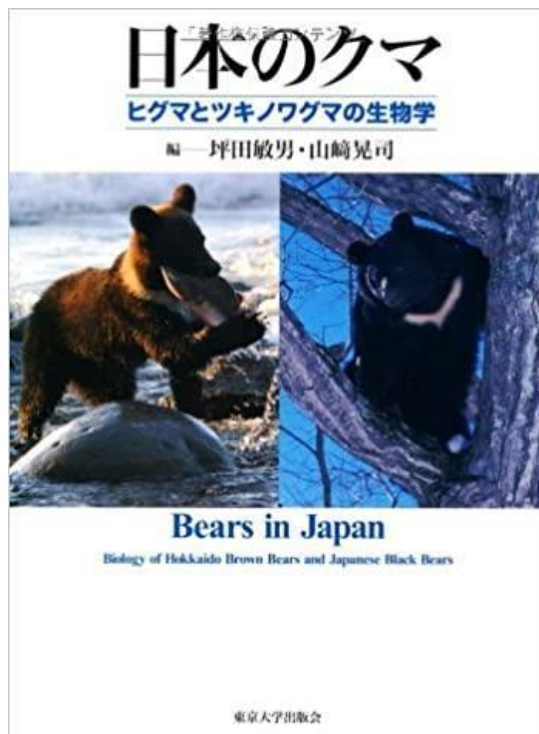


- 集落周辺での誘引物の徹底管理
 - ⇒ クマの嗅覚は人の数万倍 キロ単位でやってくる
 - ⇒ 捕獲罠の誘引エサの使い方も注意
 - 例：米ぬかなど
- 集落周辺のクマは夜行性
 - ⇒ 夜間，薄明薄暮の散歩，ジョギング，犬の散歩は危ない
 - ⇒ 単独で行動しない
- 遭遇時の対処
 - ⇒ 興奮させない・驚かせない
 - ⇒ 追いかけない
 - ⇒ 攻撃されたら防御姿勢
 - ⇒ 引きずられたら徹底抗戦

クマスプレーの使い方

YouTube ヤマケイチャンネル（約38分）

<https://www.youtube.com/watch?v=W-9dcWnBP5I&t=4s>



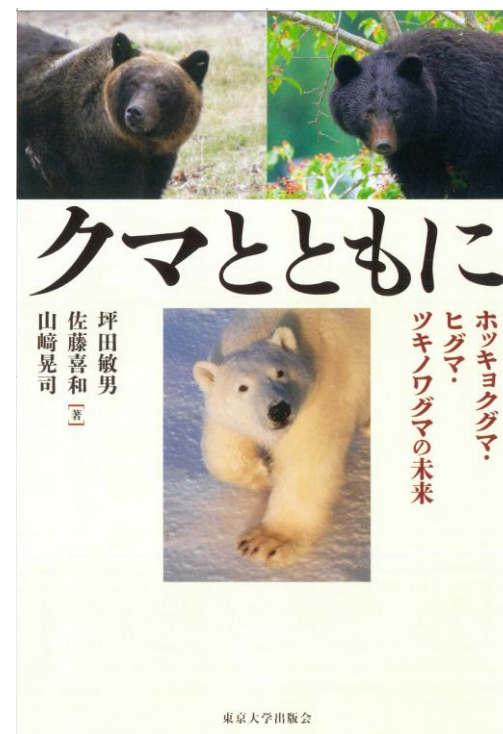
東大出版会(2011)



東大出版会(2017)



フライの雑誌社(2019)



東大出版会 (2026)